



復刊第126号
題字 吉岡弥生

巻頭言

女医と社会

加藤支部長福岡市助役に就任

日本女医学会福岡支部支部長加藤笠子先生は平成三年三月、全国の都道府県と十一の政令都市の中で初の女性助役として就任されました。保健所を振り出しに母子医療、老人医療のシステム整備に尽力され、昭和六十年から衛生局長としてご活躍、その間の卓越したご手腕、力量を認められ、大都市福岡における助役就任となられたのですが、私ども女医の仲間としてまことに嬉しく思うものでございます。新聞の評によれば、今回助役に登用されたのは、高齢化社会に対する深い造けいと「女性の目」の確かさが買われたものであるとあります。昨今の義務的推進の女性登用機運とは関係なく、長年、自然体で活躍してこられた先生の實力

副会長 佐藤千代子

そのものの評価というべき言葉であると思います。昨年福岡市において開催された女医学会主催の講演会に出席した際、先生についての予備知識を持たず初めてお目にかかりましたが、市の職員への指図、私どもに對する応接の中で、堂々たるご風格の中に女性らしいこまやかなお心づかいを感じ、素晴らしい方だなと強烈な印象を受けたことを憶えております。今後目覚ましいご活躍をされまことと期待しております。

求められる女医像

現在、深刻な社会問題となつていゝる高齢者介護、出生数の減少、女性の環境変化による健康阻害など、女医は今後社会との関連を重視した医療に取り組んでゆかなければならぬと思ひます。というより逆に社会

から女医に対する期待が増大してくると考えます。もちろん、優れた研究、高度な臨床研鑽、教育指導に携わること必要な責務であることは言を俟ちません。しかしすべての医学が究極的には社会への還元と結びついていると思ひます。それぞれの立場での活動のみでなく、会員相互の情報交換、意見、行動の交流を深くし緊密な連携を図つてゆく中で、新しい女医像が浮き彫りされてくるのではないのでしょうか。

時を同じくしてこの三月、やはり女医学会で全国国立大学医学部初の教授となられた名古屋市立大、衛生学教授青山光子先生の定年ご退官パーティに出席しました。席上、ご来賓教授のスピーチに、「大学の責務に研究、教育、学問の社会への還元」の三つがある。青山教授は前二者については男性教授と同様の業績を挙げ、その上優れた点は、女性としての視点から学問を積極的に社会で実践し、啓蒙指導をされたことである」と。この評価に感激いたしました。

思春期問題

今年、新春号の会誌に山崎会長が二十一世紀に向けて女医が取り組むべき問題として列挙された中に、思春期と更年期の対応も含まれています。その中でも私は差し迫つた状況として思春期問題への取り組みを考へなければならぬのではないかと思ひます。総務庁から発表された青

もくじ

巻頭言	佐藤千代子 (1)
各報告	
庶務部	白橋 美笑 (3)
	三好 美春 (3)
会計部	二村美英江 (3)
學術部	藤井 儋子 (3)
事業部	関口 克久 (4)
渉外部	野澤 良美 (5)
広報部	久保田くら (6)
支部だより	
東京都支部連合会だより	今野 信子 (6)
第36回日本女医学会定時総会のご案内	(2)
第5回ワークショップ開催のお知らせ	(4)
第22回国際女医学会会議のご案内	(5)
会員の消息	
第31回四国新聞文化賞をうけた松浦俊子氏	(6)
福岡市の助役に選出された加藤笠子さん	(6)
第14回學術講演研修会予告	(7)
日本女医史追補出版	(7)
理事會議事録	(7)
会員動靜	(8)
編集後記	(8)

少年白書(平成二年版)によると、現在の青少年の状況は「遊びが室内レビゲームなどから受ける社会認識、そしてテレビ、ビデオなどの画面に

第36回日本女医会定時総会のご案内

いよいよ総会まであと一カ月となりました。生方にはますますお元気で活躍のこととお慶び申し上げます。すでにお申し込みいただいておりますが、第36回定時総会を左記の日程のように開催いたします。なお、エキスカージョンにつきましては、既に満席でキャンセルさせていただきます。項目もごさいますが、朝食会とCコースはまだ少々余裕がございます。

日時 平成3年5月25日(土)
場所 京王プラザホテル
〒160 東京都新宿区西新宿二丁目一
電話 〇三三三四四一〇一一

評議員会 午後3時〜3時45分
総会 午後4時〜6時30分
登録費 三、〇〇〇円
懇親会 午後7時〜8時
会費 一〇、〇〇〇円

■5月24日(金)

- (Aコース) 五月場所相撲観戦
*満席のためキャンセルしました。お申し込みありがとうございました。
- (Bコース) 夜の部 歌舞伎座
*午後4時30分開演、歌舞伎俳優尾上左近が、父尾上辰之助の名前を継いで、二代目を襲名披露。夕食つき
- *先着30名、費用一五、〇〇〇円

■5月25日(土)

- (朝食会)
*朝のすがすがしいひとときを、ご歓談しながらのお食事をどうぞ。ホテルに宿泊なさらない方もぜひご参加下さい。
- *費用三、〇〇〇円
- (Cコース) 美術館めぐり
*朝食会後、午前10時京王プラザホテル出発、サントリー美術館・出光美術館めぐり、銀座で昼食後解散。
- *費用五、〇〇〇円
- *先着50名 費用一五、〇〇〇円

■5月26日(日)

- (Dコース) 昼の部 歌舞伎座
*午前11時開演、団菊祭。昼食つき
- *先着50名 費用一五、〇〇〇円
- *ご出席人数により、多少変更があるかもしれませんが、ご承知下さい。
- 25日(土)午後、お茶席の用意をいたしまして、皆様のお越しをお待ち申し上げております。

社団法人日本女医会
東京都支部連合会

出てくるものと、現実の社会との違いを認識できない青少年像、またある県で施行された最近の調査によると、ホラービデオを見ている児童、生徒が六七%いるという結果をみて驚きました。ホラービデオの映す残虐性、非人間性が子供たちのこれからの生き方、考え方にどんなに大きな影響を与えるかと懐然たる思いに襲われます。診察に来る幼児を見て、その行動はまったく自己中心的であり、落ち着きのないというより傍若無人に行動する姿に、何とかしなければ……の嘆きをお持ちの先生方も多いのではないのでしょうか。これらの問題は学校教育、家庭の躾など専門家に任せるとしても、思春期の問題は、医師として関わりを持たなければならぬ部門だと思えます。地域での健全母性育成事業の一端として思春期電話相談が行なわれております。その担当をして数年間、電話をしていく中高生の性に対する無知蒙昧さ、それは週刊誌、ポルノ漫画などに書かれている刺激的興味本位の無秩序な知識であり、しかも自分に都合のいいように解釈している様子が驚かされます。女子中学生ですらテレクラを利用して遊びのお金を稼いでいる現状です。とくに女生徒の無知蒙昧は、性の交渉を持った動機が、彼に棄てられるかも知れないと心配だったので、彼が可哀想だったからという答からも窺われます。女医会には全国的に思春期問題に取り組み、指導に活躍していらっし

やいます。以下まったく私個人としての夢ですが、その方々の指導ご協力をお願いしたい。全国的な組織で女医による思春期電話相談を始めたいかがでしょうか。相談者からの質問を文書で受け付け、その中から最大公約的な件について持ち廻りの担当者からラジオで回答する。このような方法ならば、会員は在宅のままでも時間的にも抱束されることなくできるのではないのでしょうか。ボランティア活動であり、放送費用などは厚生省か日本医師会で応援していただくのでは……と期待しております。会員の方々が、ご自分の意志で得意とされる分野の項目を登録し、ご協力いただく女医会人材バンクは、このような時に威力を発揮できることと楽しみにしております。

総会にご出席を

この五月二十五日には日本女医会平成二年度総会が京王プラザにて開催されます。社会の中で一段と期待される女医は、会員の広範な能力を結集した上に作られるものと思えます。地球レベルで物事を考える時代となり、卒業年数、卒業校などという壁は前時代的であり、参加者全員が楽しく忌憚のない意見を交換できる総会でありたい、執行部としてもそのように努力しなければならぬと考えています。ぜひご出席いただきますようお願い申し上げます。

各部報告

▼庶務部

月日の経つのは早いもので、庶務部を担当しては二年が過ぎようとしています。

庶務は、会の運営を円滑に推進するとともに会員増強を初めとして、会の発展をはかる基盤の構築に努力しなければなりません。実際に直面して見ますとその業務は、事務局に負う所が多く有能な事務局があつてこそ私どもの理念も構想も実現可能となることを改めて認識し、感謝している次第です。

庶務部は、佐藤副会長を中心に、白橋、三好常任理事、荒木、南雲、福永、八木の四理事で担当しておりますが、福永理事が体調を悪くしてご静養中であることは、大変残念であり、一日も早いご全快を願っております。

庶務担当理事は、理事会開催前に一時間早く集まり意見の交換をしておりますが、それぞれの会務のベテランであり心強い限りでした。また、佐藤副会長には、常々適切なアドバイスその他諸事万端に心を砕いていただき大変助かりました。すべての支部の先生方とコミニケ

白橋 美笑
三好 美春

ーションを持ちたい。社会との関連を持って女医の特性を生かした活動を広げていきたいとの山崎会長の熱意におこたえずべく私どもも一所懸命頑張りました。

平成元年より今日まで新入会員並びに新卒の入会者が増加していることは大変うれしい事であり、これは、会長の熱意に加え各支部の先生方が支部のお集りに会長をご招待いただくことも増え、ご協力いただいたおかげと存じます。また、事業部の熱意で年金加入者が多くなりましたことも庶務部としては、大変うれしいことと喜んでいました。

日本女医会では先輩の先生方の献身により長い歴史の中で大きく育ち、発展してまいりました。現在も会長をはじめ会員の先生方が、国内、国際的にも素晴らしい活躍をしております。残念ながらその存在が社会的にはあまり知られていない事が多くあらゆる機会をとらえて広く理解して頂けるよう努力しております。ただ淋しい事は人口の高齢化と同様に女医会会員も高齢化し三月末に

▼会計部

自然退会が多く見られる事で今後はこの問題に対応していかなければと思っております。激動の昭和も終り平成の時代に入りましたが驚くほどの早さで国際状況の変化が始まりその流れの中で国内状況も激変し環境の悪化も著しく医療をとりまく社会状況も一段ときびしくなっております。

昭和六十三年より平成二年度までの会計部は、ベテランの石川文字理事を除いてはまったくの新人ぞろいで、新常任理事、野本照子、二村美美江、新理事、青井禮子、中濱昌子で構成され、この三年の間、会計担当の佐藤千代子副会長にこそまことと教えられ、時には山崎倫子会長にまでご示唆を受けながら、それでも全員仲よく、歩いてまいりました。

今ふり返ってよかったです。今後は、会費の納入が円滑だったことと、赤字を出さず、会費値上げを議題に挙げることもなく過ぎた一番の理由です。ここに改めて全会員諸姉に厚くお礼を申し上げるとともに、平成三年後も一層会費のご完納をお願いしてやみません。

会計部として嬉しいことは、この尊い会費収入が会員に役立つ支出として使われて行ったことです。とくにこの三年の間で印象深かった支出

二村美美江

た。女医会としても、今後の女医会のあり方をもう一度見つめ直しその存在意義を真剣に考え討議し、さらに明るく楽しいそして魅力のある会として発展させていくよう皆様方と一緒に努力して参りたいと思っております。諸先生方のご指導ご協力を心からお願ひ申し上げます。

として、日本女医史の編集、地方の日本女医会支部に積極的に働きかけを実現させた事業部企画の教育講演会、管理費部門から事業費部門に支出を移した「年金」を事業部がその大きな仕事の一つとして積極的に広めて下さったこと、医師教育のワークショップや学術講演研修会の内容が充実した学術部の活躍等です。われわれ会計が常に庶務と連絡をとりあって、佐藤副会長を頂点に何回かの会合を持てたことも嬉しいこと

▼学術部

ワークショップも平成二年度で第四回を終えました。講師の先生方多くは大学あるいは付属研究施設で講師、助教授として活躍中の方であ

とでした。会計としてはいつも庶務の行動が見えていなくてはなりません。たとえばコピー機を例にとっても、庶務や事務局が購入したい機種と会計が購入してもらいたいのとの接点を早くみつけないては事務が停滞します。「話しあい」です。皆それぞれ医業という仕事をもつていそがしいけれど、時間を都合しあつて二つの部がよい意味で干渉しあえた事もよかつたと思っております。そして最も嬉しいこととしては、会計部一同の長い間の念願だった事務局員と庶務、会計の集まりを持つたことです。山崎会長ともろろん佐藤副会長の出席をお願いして全員十五名でこれからの管理部の姿勢を和氣藹藹と話し合った平成三年二月二十三日の会合でした。

事務局の優秀な実務の腕を最大限に發揮してもらうために話し合いました。事務局員との相互信頼が今までもよりなお一層深くなりました。

この話しあいの場合は次期の会計部にぜひ残して行きたい慣例です。

藤井 儂子

り、十分な経験を積まれているのみでなく、新しい観点をもち得る年代でもあります。平成二年度のテーマは「腫瘍の診断・治療の新しい動向」

でしたが、お世話をされるわけでも勉強しきれない領域がたくさんあります。その時代の診断技術や治療の進歩の恩恵を十分に受ける事は、その時代に生きる者の権利であり、その実行の第一歩は医師の判断にかかるとは思います。この観点にたつて選ぶワークショップのテーマは時に少し難解な内容を含むこともあるかも知れませんが、しかし、若い講師の先生方が自ら応用し確信をもって話して下さる新しい内容を聞きますと、勉強すべきことは卒後年齢に関係ないことを改めて感じるのではないのでしょうか。このような機会を利用して患者の紹介なども可能であり、職業を通じての会員間の交流の一助になればと念じております。毎回百五十名余の参加申し込みを頂きますが、その三分の一は東京以外の地域からで、今年も青森、高知、岡山、広島と遠方からの参加を頂きました。

秋の講演研修会のテーマは多彩です。講演いただく方々も時には医学に直接関係のない領域の方もおられます。平成二年度は、今までも折々に企画致しましたように、日本女医学会の吉岡弥生賞受賞者の、とくに受賞後の活躍をご紹介いたしました。その内容は日本女医学会誌百二十五号に掲載されたばかりです。

日本女医学会の学術助成に応募される方々は卒後十年前後、まさに充電に意欲満々の年代です。そして、その方々の研究テーマは医学の最先端の技術を応用され、ここが明らかに

なれば……と願う未解決の問題に取り組むものばかりです。簡単ではありませんがその内容は毎回会誌に報告されている通りです。

さて、学術部が中心となり、ぜひ実行に移したい事は、すでに折にふれて話題に上っていた発展途上国の女医の卒後教育の援助です。広い意味で国の事業の一端を担うことでもあり、政府との交渉もゆくゆくは含まれること、各大学や研修病院の外

▼事業部

関口 七七久

事業部は副会長大原先生を中心に石原、橋川両常任理事と小出、白浜、関口、以上六名のスタッフで、この三年間楽しく務めさせて頂いてだけました事をありがたく思っております。

この間の仕事といたしましては、

- 一、荻野吟子賞に、六十三年度は宮崎安子先生、平成元年度は小野春生先生、二年度は該当者なしでございました。
- 二、日本女医学会監修の「女医の診察室から62のヘルシートーク」を出版。これには各専門の先生方から原稿を頂戴いたし感謝しております。たいへん好評で引合もたくさんあり、現在も一部三百円で販売しております。
- 三、公衆衛生事業の一環として、

公開講演会を三回行ないました。平成元年十月大阪で松本文絵先生の「考えてほしい性と生を、平成二年四月には福岡で松本先生の「性から生へ」と山崎会長の「老いても輝くために」を、十月には徳島で松本先生の「幸福に生きるために」と山崎会長の「豊かな老後のために」を開催、いずれも大好評でございました。

四、年金につきましては、各地方の支部会に部員一同手分けで出席いたしまして「佐賀、徳島、北海道、埼玉、群馬、京都、福岡」にて女医会入会のおすすりめとともに年金加入をお願いいたしました。三月二十日現在、加入者総数三百六十一件、総口数三千九百七十五口となっております。この三年間の増加は新加入件

第5回 ワークショップ 開催のお知らせ

とき 平成三年七月二十日(土)
午後二時三十分～五時三十分
ところ 東京女子医科大学臨床講堂(2)
テーマ 「薬害」
(演者および演題)

- 一、薬理学的基礎 帝京大薬理学 教授 藤井 儔子
- 二、循環器治療薬の副作用とその注意点 東京女子医大循環器内科 助手 雨宮 邦子
- 三、てんかん治療の問題点 岡山大小児神経科 講師 山麿 康子
- 四、膠原病およびリウマチ 聖マリアンナ医大第一内科 講師 星 恵子
- 五、消化管疾患の治療薬による薬害 愛知医大第二内科 講師 内海 恵子

*詳細は後日お知らせいたします。

学術部

第22回国際女医学会会議のご案内

期日 一九九二年3月8～14日

開催地 ガテマラ市(中央アメリカ)
Hotel Conquistador, Sieraton

テーマ 全ての子どもたちの健康

サブテーマ

- 一、発展途上国における乳児死亡率とその減少対策
 - 二、総合的ヘルスケアサービスのモデル
 - 三、子供の健康における新しい問題点
 - 四、子供における薬物濫用
 - 五、小児科領域の医学的研究のガイド
 - 六、子供の成長発育に対する環境の影響
 - 七、小児の臓器移植—提供者と受容者
- ワークショップ
- 一、定年退職女医
 - 二、女医に関連する諸問題
 - 三、女性、健康、発展

ヤングフォーラム Communication Skills
公用語 英語
抄録提出 一〇〇語、一九九一年8月30日 締切

数百二十五件、千四百八十二口でございました。

五、日本女医学会ペンダントの作製、平成二年に作りまして十八金製で三万三千元。各支部会におねがいいたしまして、只今百四十九個販売いたしました。

六、ルーペンゲンも各支部会場で販売。中元、年末、年始セールを行なうとして収益を計っております。

七、支部への助成は一名につき二百円を還元しております。

八、僻地助成につきましては、六十三年度は東京女子医大の無医地区研究会へ四十万、平成二年に同じく四十万の助成をいたしました。(平成元年度は該当なし)

九、本年度より人材バンクを開設

(発表希望者は登録費を同時納入のこと)

註 □頭発表は各国の題まで、ポスターによる発表の制限はなし

登録費

- 一九九一年8月30日まで 三五〇US\$ (会員) 一七五US\$ (同業者)
- 一九九一年10月30日まで 三八五US\$ (会員) 一九一US\$ (同業者)
- 一九九一年10月30日以降 四〇〇US\$ (会員) 二一〇US\$ (同業者)

★登録用紙はまだ届いておりませんが、発表を希望する方は藤井まで連絡下さい。

一般の参加希望者のために、旅行代理店を数社依頼する予定です。観光のスケジュールなどについて、もう暫くお待ち下さい。

連絡先・藤井儔子 国際連絡書記
〒173 東京都板橋区加賀2-1-1
帝京大学医学部薬理学教室
TEL (03) 3964-1211 内線2245

▼渉外部

野澤 良美

国連NGO国内婦人委員会の呼びかけによって全国組織を持つ民間婦人団体が集まり、国際婦人年記念集会の相談会、実行委員会が一九七四年十二月十八日に結成されました。これを契機に国際婦人年連絡会として組織され現在は五十団体が加盟しております。

日本女医学会もそれに参加しており、平等、開発、平和をテーマに、男女平等、婦人の地位向上に取り組んでおります。年一回の国際婦人年の大会の開催に向けて、実行委員会、運営委員会、常任委員会などの会合を重ね、種々討議を行なってまいりました。長年の積み重ねを踏まえ、さらに二〇〇〇年にむけての民間行動計画につき討議、研究を続行しております。すなわち加盟団体全体会において、政策決定参加、教育マスメディア、労働、家族、福祉、平和、国際協力等につきさらに検討を重ねて行くことが予定されております。

いたします。登録票を同封いたしましたので、会員の先生方、ごぞつて登録下さいますようお願い申し上げます。

講演会雑誌、マスコミ等からの依頼が最近増加しておりますので、ただちに対応できる状態にしたいと存じます。

以上報告申し上げます。今後とも、会員の皆様のご協力ご鞭撻をよろしくおねがい申し上げます。

また女性に対する開発、協力の強化をはかり国連婦人開発基金(UNIFEM)の増加のための協力もできるだけ続行してまいりたいものと願っております。

タイ国のチャチャイ首相の来日に際し、同伴された女性総理府長官(マスピット女史)、ユニフェム親善大使アショ女史、をお迎えしての交流懇談会、自由民主党主催の各種団体代表者との懇談会に出席するなど、他の多くの婦人団体との協力のもとに、日本女医学会のPRのためにも、微力ながら努力してまいりたいものと渉外部一同心より願っております。

*

▼広報部

会誌は年四回であるが編集委員は一号に三回集合せねばならない。私はこの委員諸姉を「働き蜂」とひそかによんでいる。

久保田くら

支部だより

東京都支部連合会だより

東京都支部連合会会長 今野 信子

さくら前線のためよりもきかれる今日この頃ですが、諸先生にはご健勝にご活躍のこととおよろこび申し上げます。

ここに改めて申し上げるまでもございませぬが、本連合会は昭和五十九年二月二十九日、会員皆様の総意のもとに結成されました。

五月は選挙総会が開催されます。この総会のバイプレイヤーとして、私ども連合会は遠来の会員諸先生に、なんとか東京での時間をたのしく有

意義に、そして友達より来るこのチャンス大切に、一層懇親を深めて頂きたいと、レクリエーションのプログラムを用意いたしました。

会員の消息

中第三十一回四国新聞文化賞をうけた松浦俊子さん

四国新聞文化賞は、教育、科学、産業、芸術、体育及び社会事業などを通じて顕著な業績を残し、意義ある活動を行なった個人または団体に贈って表彰するものと説明されています。

松浦俊子さんは昭和十四年の東京女子医専の卒業生である。医師として地域社会の医療に貢献を果たし、いち早く老人問題に目をむけ、香川成人医学研究所をつくり、老人ホケの研究にとりくみ、「百歳まで生きよう会」をつくる等はなほだしい活動をしている。

坂出市室町大樹会回生病院の理事長協力にますます活発に進進されますよう念願するものであります。

(文責・久保田)

中福岡市の助役に選出された加藤竺子さん

加藤さんは市の衛生局長である。三月七日に、空席であった助役に起用することがめられた。

女性助役は十一ある政令指定都市ではじめてであり、したがって大役ではあるが「問題点をつかむのが早く、処理能力は一流」と市長がその力量を高く評価しての抜擢。

(文責・久保田)

第14回学術講演研修会予告

日時 平成3年10月12日(土) 午後3時から9時の予定
場所 京王プラザホテル(東京都新宿)
講演者 内山竹彦先生

東京女子医大 微生物学教授
細菌性ショックと生体防御機構
免疫リンパ球や食細胞の関与

学術部

理事会議事録

日時 平成3年1月26日
場所 京王プラザホテル4階 宴
出席者 山崎、大原、小俣、佐藤、石原、久保田、佐野、白橋、二村、野沢、野本、橋川、橋本、藤井、丸山、青井、明石、荒木、石川、稲生、小出、小暮、白浜、関口、中濱、南雲、野呂、平瀬、森田、八木、添田、西山、山口

欠席者 三好、石津、尾中、柴田、福永
庶務報告 八木理事
12月15日・常任理事会開催
12月18日・日本医師会主催忘年懇

親会に山崎会長出席。
1月17日・日本女医史編集小委員会開催。
1月20日・佐賀支部総会に石原常任理事、白浜理事出席。
その他 (1)故高橋嘉子先生、故富永睦子先生ご遺族より香典の礼状あり。

Bコース

平成3年3月26日~4月5日
費用 二七九、〇〇〇円
募集人数 各三〇名
締め切り 平成3年2月28日
会計報告 野本常任理事
12月分収支別紙どおり報告。承認

報告事項

吉岡弥生賞授賞者決定
医学に貢献された部門
野本照子(東女医内支部)
社会に貢献された部門
保坂智子(大阪7支部)
萩野吟子賞被推薦者なし

各部報告

(広報部) 久保田常任理事
日本女医誌一・二五号を近日発送。
「追補・日本女医史」年表事項について検討中。
(事業部) 白浜理事
1月20日、佐賀支部総会に出席、年金加入の依頼。

(学術部)

橋本常任理事
学位取得者について別紙どおり報告。
次年度のワークショップおよび学術講演会を検討中。
(国際女医会) 藤井国際連絡書記
・アイルランドのマッキーニーさんより平成3年4月8日から21日までの間、中国において女医の交流会を開催するとの連絡に小出理事出席の意向。

お知らせ
日本女医史 追補出版!!

先輩、福田幹編集の日本女医史に近年の年表を追補いたしました。

本文の前半は女医公許以前の傑出した女性が医学を志し、困難を堂々とのりこえ、目的に邁進するお一人お一人の生活が、リアルにかかれております。

日本女医史(追補)
定価 二八〇〇円(税込)
平成三年四月発行

ご希望の方は同封の振込用紙にて代金一、八〇〇円をお送り下さい。後日発送いたします。

理事会議事録

日時 平成3年1月26日
場所 京王プラザホテル4階 宴
出席者 山崎、大原、小俣、佐藤、石原、久保田、佐野、白橋、二村、野沢、野本、橋川、橋本、藤井、丸山、青井、明石、荒木、石川、稲生、小出、小暮、白浜、関口、中濱、南雲、野呂、平瀬、森田、八木、添田、西山、山口

親会に山崎会長出席。
1月17日・日本女医史編集小委員会開催。
1月20日・佐賀支部総会に石原常任理事、白浜理事出席。
その他 (1)故高橋嘉子先生、故富永睦子先生ご遺族より香典の礼状あり。

募集人数 各三〇名
締め切り 平成3年2月28日
会計報告 野本常任理事
12月分収支別紙どおり報告。承認

希望の方は同封の振込用紙にて代金一、八〇〇円をお送り下さい。後日発送いたします。

希望の方は同封の振込用紙にて代金一、八〇〇円をお送り下さい。後日発送いたします。

一、平成4年総会開催地について
香川県坂出市に決定。

二、人材バンク登録について
別紙登録用紙案について検討、承認された用紙を全会員に配布し登録簿を作製保管。

三、総会について

日時 平成3年5月25日(土)

場所 京王プラザホテル

日程

5月24日(金)

Aコース 五月場所相撲観戦

Bコース 夜の部観劇 歌舞伎座

5月25日(土)

朝食会

Cコース 美術館めぐり

評議員会 午後3時~3時45分

総会 午後4時~6時30分

懇親会 午後7時~8時

懇親会費一〇、〇〇〇円

5月26日(日)

Dコース 昼の部観劇

歌舞伎座

記念品 庶務、会計部で検討

お茶席、その他観光行事については、東京都支部連合会に依頼しその費用相当額を負担する。

四、その他

(1)日本女医史について

年表事項について編集小委員会を開催し検討する。

(2)一九九三年西太平洋地域会議について

会期、会場、テーマを今後検討。

(3)風土社より社会保険新報出版本

発行について

月刊紙「いきいき」の原稿執筆に協力する。

一篇四〇〇字詰め原稿用紙四枚、執筆料一五、〇〇〇円。

その一〇〇%を日本女医学会に納付する。

平成3年5月号より。(3月1日締め切り)

・事業部でまとめる。

(4)英国女医からの依頼について

女医の活動、家族計画、女医の労働条件、日本女性の疾病について調査依頼あり、委員会を作り検討する。

(5)役員宿泊料支払について

宿泊料高騰のおり、適正額について提案

(6)渉外部より福祉施設の見学について提案

副会長(庶務担当) 佐藤

庶務部 白橋、荒木、南雲、八木

評議員(敬称略)

宮城支部 三品房子

予備評議員(敬称略)

宮城支部 小田泰子

入会会員(敬称略)

群馬支部 秋田喜美 安藤公子

市川支部 市川長子 植原睦美

尾城支部 尾城政子 片平文

桂支部 桂アグリ 駒井和子

乾 裕美子 大山みつ

佐藤みさを 佐藤キサ

佐藤ち江 清水友子

鈴木政子 鈴木由紀子

田島貞子 田中富士子

殿岡幸子 長坂一子

根岸和子 細谷靖子

町田杏子 百瀬 恵

矢島晶子 吉浜 敦

吉浜美由喜

埼玉支部 五十嵐里華 皆川恵子

品川支部 望月恵子

杉並支部 前沢浩美

中野支部 木下敏子 沢田園子

練馬支部 李 慶英

文京支部 浜野英子

港支部 小川香代子

モヒトサリサ

東女医学内支部 山内あけみ

都下西支部 西嶋公子

神奈川支部 高口草葉子

長坂弘子

橋本裕美子

愛知支部 加藤敦子

奈良支部 中尾幸子

福岡支部 秋吉都美

高知支部 武田京子
北海道支部 渡部裕子
北海支部 今井直枝
栃木支部 品川支由利子
品川支部 齊木由利子
世田谷支部 大沼田あや子
東女医学内支部 小倉千佳
都下西支部 水口かおる
松田摩也

神奈川支部 折笠玲子

愛知支部 磯部素子

物故者(敬称略)

栃木支部 多島智恵

千葉支部 大月富子

大田支部 赤須久代

世田谷支部 上山ハマ

練馬支部 森 寿恵

集記 編後

今期の会誌の編集も今号で終りである。大過なくすし得たのは皆さんのおかげであり感謝一ぱいである。と申すのは、大原先生は副会長としての立場をしっかりとふまえて、編集を委員にまかせ、教養深いご注意を下さる、という対処をして下さったこと、委員は格別忙しい方々ばかりであるのに一号に対し三回の会議を最少として集まり、その間に原稿とその後の校正の資料がどしどしと各自におくられてくることの繰りかえしの忙しさをがっちり受けとめての努力があったからである。そしてあちらに、こちらに、原稿のこと、著者とのノ・ハウなどをしてしっかり取りつけてくれる事務室の働きがあつてはじめて「一号」「一号」が生まれてくることになる。重ねて皆さんに感謝する。

とどめるものはないので、面白くもおかしくもないが、同人誌ではないことを認識して編集することが肝要である。真心をこめて編集することにより、会員各位が手にとられて、「ああそうか、こんなこともあったのか」との感想がいただけると思われ、毎号毎号、必ず掲載する項目の原稿依頼、切の目も心配、刷上りも気になる、執筆をこたわれどうしようかななどのことを委員とともに考えることも苦にはならなかった。また各地区の会員並びに会員でない方々の情報も本部にご一報いただく。と会誌の立場からは最良と思われる。(久保田)

平成3年4月20日 印刷
平成3年4月25日 発行
編集人 久保田くら
発行人 日本女医学会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル
社団法人 日本女医学会
電話 三三四九八〇五七
制作 東京都文京区水道1-5-16
株式会社 金剛出版